

令和5年度第1回彦根市高齢者保健福祉協議会	
<p>■日時 令和5年（2023年）8月2日（水）13時30分～</p> <p>■場所 彦根市福祉センター別館2F 集団健診室</p> <p>■出席委員 安孫子会長、森副会長、石川委員、岡崎委員、城戸委員、佐野委員、菅原委員、鈴木委員、高橋（孝）委員、高橋（嘉）委員、篁委員、田口委員、辻委員、寺見委員、横野委員（15名）</p> <p>■欠席委員 文村委員、友近委員、細田委員、村岸委員</p> <p>■事務局 福祉保健部長、健康推進課長、保険年金課長、社会福祉課長補佐、高齢福祉推進課長、高齢福祉推進課（課長補佐、主幹、副主幹）</p> <p>■傍聴 名</p>	
開会	
事務局	<p>皆様、ご苦労さまでございます。高齢福祉推進課の課長をさせていただいております、林でございます。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>定刻となりましたので、ただ今から令和5年度第1回彦根市高齢者保健福祉協議会を開催いたします。本日、彦根市高齢者保健福祉協議会公開要領第3条の規定により、会議は原則公開となっておりますので、傍聴の方がいることをご報告します。会議の成立についてですが、彦根市介護保険条例施行規則第17条第2項の規定では、「第1号から第3号までの委員のそれぞれ1名以上の出席があり、かつ委員総数の過半数の出席がなければ開くことができない」と定められております。本日は第1号から第3号までの委員のそれぞれ1名以上にご出席いただき、委員19名中現在のところ、過半数の13名の委員の方がご出席いただいておりますので、当会議は成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>それでは開会にあたりまして、福祉保健部長の田沢が一言ご挨拶を申し上げます。</p>
福祉保健部長	（挨拶）
事務局	<p>ありがとうございます。続きまして資料の確認をさせていただきます。</p> <p>（資料確認）</p>
事務局	<p>本日は15時30分を目途に終了させていただきたいと思っておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、彦根市介護保険条例施行規則第17条第1項の規定によりまして、会長が会議の議長となりますので、この後の進行は安孫子会長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
安孫子会長	<p>安孫子です。よろしくお願いいたします。1時間半という短い間ですが、建設的で、かつ充実した議論となりますようご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第3の報告の（1）彦根市介護人材実態調査の報告書についてです。事務局から説明をお願いいたします。</p>
3 報告	
(1) 彦根市介護人材実態調査報告書	
事務局	<p>それでは、説明させていただきます。</p> <p>報告の前に、今年度初の協議会ということで、年間スケジュールを皆様にもご確認いただきたいと思います。本日、8月2日に第1回を開催させていただきまして、</p>

	<p>その後、10月、12月、2月と、計年間4回の開催を予定しております。</p> <p>本日は、進捗評価や人材実態調査、骨子案などを議題、報告事項とさせていただきます。次10月にはさらに踏み込み、計画の素案を提示し、皆様のご意見をいただくことと、給付の見込料について、9期の3年間で介護保険サービスの利用がどのくらい増えるか、また、認定者がどのくらい増えるかなどを確認させていただきます。そして3回目に、10月でいただいた意見をもとに素案を作成させていただきます。この辺りで保険料の方も具体的な数字が出てくるというような形になります。最後、第4回、2月のところで計画を決定していくというような流れになります。</p> <p>それでは、議題の方に戻りまして次第の3の彦根市介護人材実態調査報告書の報告をさせていただきます。</p>
JMC	(資料説明)
事務局	彦根市は今回、介護人材実態調査を初めて実施いたしました。国の指針等を参考にしながら作成させていただいているのですが、彦根市オリジナルで聞きたいところを聞いている構成にもなっております。次回以降調査を実施するのであれば、これを加えてほしいなどのご意見もいただけたらと思いますので、ご質問よろしくお願いいたします。
安孫子会長	ではただいまの説明についてご意見、ご質問、ご感想をお願いします。また今回初めての調査となりますので、次回以降こういったことも聞いた方が、介護を実際に提供されている方の実情がわかるのではないかなというご意見がありましたら頂戴したいと思います。
田口委員	一般公募の田口です。この介護人材実態調査は事業所の管理者に対して実施したということですか。
安孫子会長	事業所には触れていますが、対象は管理者です。
事務局	事業所を対象にしております。おそらく管理者の方がお答えいただいていると想定しております。
田口委員	<p>大津市でも同様の調査が実施されているが、中身は異なり、どの年齢の方がどのようなところで働いているか、なぜこの仕事に就いたかなどを調査されています。なぜ就いたかというのは、資格能力を生かしたい、生きがいのある仕事だと思ったということが一番多いです。その方々が辞めていかれる理由を調べられたらどうかと思います。</p> <p>それと少し横に逸れますが、他市の施設で働いていた方から聞いた話ですが、入った者の休暇を自由に認めないことや、入所者からのセクハラ、本給は上がったが手当を全部そこへ盛り込まれ、年間給与は下がったことなどもあります。そのため、本当に働いている人になぜ辞めていくかというのを聞いたらどうかと思います。</p>
安孫子会長	ありがとうございました。田口委員からは、大津市で同じような調査が公開されていたが、その中身につきましては、どういった方がどのように働いているのか、また、その理由、そして、実際の経営者の資質や、介護を提供されている方の実態などを言われたかと思います。事務局、意見をお願いいたします。
事務局	今回は事業所に対して実施しているものになり、実際に働いておられる方に向けたものではないということで、次回以降は田口委員のおっしゃるよう働いている個人

	<p>に対して調査を実施するというのもひとつかと思しますので、次回以降の参考にします。彦根市として、規模は少し小さいのですが、介護事業所で働いておられる5年目までの職員を対象にした調査を実施したこともあります。インターネット等を使い、一度実施しました。回答数は少なく、30人程度ですが、参考にデータを持っているような状況です。そこでも職場環境の話などは出てきていた。賃金の話や、職場環境の話というのはご本人に聞いてもそういった回答があったと記憶しております。また今後計画に則った調査という部分では検討させていただきたいと思えます。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございます。実際に、彦愛犬の介護保険事業者協議会などで、人材の育成をされているかと思うが、現状などを生の声で聞いておられたら、ご紹介いただきたい。</p>
菅原委員	<p>彦愛犬の介護保険事業者協議会菅原と申します。介護職員が少ないのが慢性的になってきている。対応として初任者研修を毎年開催しているのが、受講する人が少なくなってきており、今回は3人でした。それに対して講師を何十人と派遣していただいているが、ほぼボランティアです。徐々に少なくなっている現状なので、それが今後どうなっていくのか、果たしてどうしたものかというところが実情です。</p> <p>ここに書いてあるとおり現場の方はかなり困っていると思えますので、いろいろ対策対応しているが、全然追いついていない。今は一般企業の対応面がよいこともあり、そちらに行くこともあるので、かなりきつい状況だと思えます。</p>
安孫子会長	<p>鈴木委員お願いします。</p>
鈴木委員	<p>現場として本当に人が足りていないという感じはしています。コロナ禍の関係もあったのか、福祉の職場は大変だとこの3年間で定着してきているのか、介護の仕事を選ぶ人は減っている感じがします。</p> <p>ハローワークと先日、関係する会議の中でお話を聞かせていただきましたが、この4月以降、介護職は特に昨年より求人をされる件数が減ってきていて、本当に現場に人が足りない中で求人を出しても集まらないと思えます。</p> <p>先ほど実態調査の中にありましたように、やはり賃金が低いところが一番の課題なのかと思う中で、他業種は物価上昇に関する手当等が上がったとありますが、介護の職場は介護報酬の改定が来年までないので、実質身銭を切って出すだけの余裕もないため、今年度給与を上げている事業所はほとんどないと思えます。新しくハローワークに職を探しに来られた方から見ると、この賃金ではなかなか働けないです。介護職をされていた方がまた介護に復帰するのでしたら他の仕事しようと思う方も実際増えているのかと思えますので、まず賃金を上げていただく必要あると思えます。</p> <p>その中でやはりやりがいのある仕事で田口さんのお話にありましたように、やってよかったという仕事ではあるのでしょうけれど、実際働く方々から見ると少しでも賃金が高いところが選択肢の中に入ると、介護の仕事は非常に厳しいという感じはします。</p> <p>そのため、今おられる方にどのように定着していただき、退職しないように持っていくのが大切だと思うところと、国の調査等の結果では訪問介護ヘルパーさんなどは60歳以上が多く、弊社も60歳以上の職員が増えています。ケアマネジャーについて辻さんからお話を聞いていただいているかと思えますが、国の調査でも、働いて</p>

	<p>いる方の平均年齢が52歳と言われている。4人に1人が60歳以上のケアマネジャーとなりますと、このまま辞めていかれる方が多いという現状です。彦根市もケアマネジャー不足が出てきていますし、介護保険を利用しようとしてもケアマネジャーがいないことが足元まで迫ってきている現状だとも聞いています。</p> <p>前は介護職の方々がケアマネジャーになっていた方が多かったが、賃金の逆転現象というのはケアマネジャーの資格を取っても給料が上がらないという状況。そうなるとう介護職になる人が減ってきている中で、介護職の中からケアマネジャーになる人もいないということは、ケアマネジャーが今後増える要素がないところも出てきています。この実態調査の結果は、介護職とケアマネジャーの給料を上げる施策を考える材料にさせていただけるのだろうと思い、期待しています。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございます。ケアマネジャーの辻委員にお伺いしたい。こちらの調査にも、居宅介護支援というところの種別の方も多く回答されていますのでお願いいたします。</p>
辻委員	<p>ありがとうございます。彦愛犬の事業者協議会の辻でございます。</p> <p>ケアマネジャーの立場でお話をさせていただきます。ケアマネジャーの平均年齢が52歳というところですが、それ以上の年齢層の方がこの地域でケアマネジャーとしても頑張ってくださっている実情があります。ただやはりケアマネジャーも定年が見えてきた、あるいは定年を過ぎて、ケアマネジャーが一度に退職する中で、右往左往しながら、担当されていた利用者を他の事業所に引き継いでいるという現状。その中でケアマネジャー資格の受講者数も合格者数も少なくなっています。さらに合格して研修を受けたものの、実践でケアマネジャーになる人が本当に1割にあるかないかという現状。彦根市も資格を取ったからケアマネになるという人は数人程度です。若い世代の方々もいないため、退職者と新しくケアマネジャーになってくださる方の差異が埋まらない。</p> <p>ただケアマネジャーの本例の仕事であるマネジメントプロセスだけではなく、アンケート結果にもあったが、本来ケアマネジャーがしなくてもいいような様々な書類関係もしなければならぬ。支援や業務が煩雑になり、疲弊を抱えながら、この圏域で頑張ってくれているケアマネジャーが多いとは感じています。人を支援するという単純援助職としては、ケアマネジャー自身が心身ともに健康でないといけないというところで、バーンアウト寸前の方もたくさんいるという現状があることをご報告させていただきます。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございました。彦根市ではこういった介護の人材の育成にも事業者協議会として取り組んでおられて、仕組みなどの準備はされているのですが、実際に希望する方が少ないという現状と、今働かれている方もこの実態調査のようにいろいろな理由があり、定着が難しい。賃金の問題や、いろいろな業務が重なり、疲弊して辞めていかれます。辞めていかれるとまたケアマネジャーの業務などが他の人に移り、同じことが起こることは知っていただければと思います。</p>
田口委員	<p>介護を受けるためには、介護認定を受けて調査をしてもらうという段階があるが、ある市では調査員を募集してもなかなか集まらない。今後高齢者が増えると、その調査がスムーズにいかず、待機児童のようになります。申し込みの際に長い間待たされ</p>

	<p>て、十分な調査もしてもらえずに介護保険料だけを払い、介護サービスを受けず亡くなるということがないように、システム全体を人材がうまく回るように考えていただきたい。</p>
安孫子会長	<p>今のことはご意見として聞いてもよろしいですか。ありがとうございます。他の委員の皆様はないでしょうか。</p>
寺見委員	<p>市民公募の寺見です。</p> <p>他の製造業などいろいろなところで外国人人材の受け入れがあると思うのですが、介護は受け入れがないのですか。もし受け入れているのであれば、どのくらいの比率なのかを教えてください。</p>
安孫子会長	<p>介護人材の中の外国人の方の割合をお願いいたします。</p>
事務局	<p>彦根市として、事業所の中で把握しているのは入所施設です。特別養護老人ホーム等で外国人の実習生、いわゆる技能実習生を一定数受け入れているのは確認しております。</p> <p>居宅介護支援の分野で外国人材が入っているという情報はあまり聞いていない。サービス上、訪問していただいたりする中で、言語などもネックになると思うが、彦根市としては入所施設で、特別養護老人ホーム等で継続的に技能実習生を受け入れておられることは把握しております。</p> <p>10ページの基本情報のところで、年齢構成の20歳から29歳のところに、介護職員という形で技能実習生の方もカウントをしています。</p>
安孫子会長	<p>委員の中で状況を存じておられる方はご意見をお願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>菅原さんのところに2人おられるそうです。</p> <p>基本的には施設しか入れないです。今はまだ訪問系は禁止されており、この間、議論になりましたが、訪問系には外国人材の受入れを反対する意見が多かった。これから訪問系も解禁されるかという議論が始まるころだと思います。</p> <p>名前は伏せますが、彦根にある特別養護老人ホームは、中国の技能実習生を非常に多く受け入れているようです。滋賀県の中でも彦根の特養はそのように技能実習生を受け入れているところが多いと思います。滋賀県の中で見ますと、南部の施設が技能実習生を受け入れている感じが多い。コロナ禍でストップしていたが、最近受入れを再開したと聞いています。今後また増えていくのではないかと。私のところの事業所は、在宅のサービスばかりですので技能実習生はまだいないです。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございます。そういった人材を活用した方がいいなどのご意見はございますか。</p>
寺見委員	<p>そうですね。先ほど人材がいらっしやらないというお話が出ていたので、そういったところに手を回して、例えばケアマネジャーの部分に日本人の方を採用されるのか、やり方を少し変えられるという方に行って、もう少し手が空けば、学びをもう一度やられたいという方が増えるのかと思いました。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございました。この実態の調査報告書は、本日委員の皆さんからのご意見、ご感想をそれぞれいただき、第9期計画に反映していきたいと思っております。</p>

4 議題	
(1) 第8期彦根市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗評価について	
安孫子会長	それでは次第の4に入りたいと思います。議題の(1)第8期彦根市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗評価についてです。事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(資料説明)
安孫子会長	ありがとうございました。只今の説明について、ご意見ご質問ありましたら皆様よろしくをお願いいたします。
田口委員	達成率について、3ヶ年計画ですが、令和3年度71%が令和4年度は70%だということは、減っているということですか。どのように見たらいいのですか。
事務局	全体で見ると1%ですけども達成率は下がっています。おおむね横ばいと評価しているのですが、下がっているか上がっているかでいうと下がっている状況です。
田口委員	3年度から始まったとしたら、3、4、5年度の推移を書かれた方がわかりやすかったのではないかと。
事務局	初年度は令和3年度で、昨年度が2年目、3年度が1年目になります。現在で3年目になり、そこで経年の推移、3年間の推移を並べることができるのではないかと思います。
安孫子会長	よろしかったですか。他の委員の皆様、いかがでしょうか。佐野委員、どうですか。
佐野委員	目標値はどのように定めているのですか。彦根市で決めているのですか。
事務局	目標値について、例えば、資料1-2を見ただけだと、表の右から3つ目の項目のところ、令和5年度までにここに持っていくという意味になります。1ページ目ですと、地域における健康づくりの推進が目標60%に対して、現在あるいは4年度としては40.6%になっているということです。数字で表せる分には目標値とさせていただきます。 数値で表せない部分に関しては、計画表の8期計画のところ44ページに各事業の取り組みを記載させていただいております。計画の本文の44ページに記載されている今後の計画が事業の目標になるという形です。全てを数字で設定ができないので、目指すところに対する進捗を各課、各部署が評価している状況です。
佐野委員	各課で数字で定められているところは、資料1、2で経年でも見られる。数字以外ではできたかできなかったかで評価されているということですね。目標は高めに設定されていたりするのですか。 ずっと達成されてないのか、達成されたりされなかったりしているのかなど、数値は数字だと経年変化で5年くらい見られそうなのですが、そこが少し気になりました。今回コロナが流行ったので、前年の比較は難しいかもしれませんが、経年で見ると、実際前と比べてどうかは記述で評価されていますし、そこもよくわかるのですが、ずっと達成度Bだと目標値が高すぎるのではないかと。Bであることを気にしなくてもいいのかなという気がします。Bだったから、より重点的にその施策を今後しないといけないのかと思われているのかわかりづらいです。目標の定め方によって関係しますよね。
安孫子会長	ありがとうございます。継続して達成されていないのであれば、目標値が高すぎて

	それが達成できないという可能性もある。目標設定の方法であったり、経年的に3年間を見て次にとなった場合に、その3年をどのくらい細かく目標設定してやっていくかというようなところも考えられたり、その表現方法や評価方法などについてのご意見だったかと思います。
佐野委員	1-1の特定健診は国が定めているものですが、特定健診の実施や保健指導はこの自治体でも国の目標値を達成されてない印象があるので、難しいと思います。非常に頑張って実施しているのに、それを達成度AではなくBというのは努力されているところがあまり評価されてなくて残念だと思い、気になりました。
安孫子会長	ありがとうございます。
事務局	数値で表すとわかりやすいが、目標の持っていく方、設定の仕方を各課にお願いしているのに、どうしても現実と乖離している数値目標が出てきてしまいます。毎回、目標設定の仕方や、数値で表せない部分をどのように評価するのかなども悩みどころではあるのですが、今回いただいたご意見を参考にさせてもらい、第9期計画に反映していきたい。確かに一生懸命しているのに評価されてない可能性もあるので、検討させていただきたいと思います。
安孫子会長	ありがとうございます。田口委員お願いします。
田口委員	大津市が4月27日に開催した資料をホームページに公開している。計画を経年変化で4年度の評価、5年度の目標を1ページにまとめてわかりやすい資料なので、参考にされてはと思います。
安孫子会長	他の委員の皆様いかがでしょうか。横野委員お願いします。
横野委員	医師会の横野です。特定健診にしても、あるいはがん検診にしても、目標達成度がBで達成目標は高いのかもしれませんが、例えばがん検診だと、業務の実施内容としては昨年に引き続き積極的な受診勧奨体制を作るとい内容で評価がBであり、今後の方向性でも引き続き積極的な受診勧奨の実施と同じことが書かれています。 そうすると前年度と同じような内容で今年達成できず、また来年同じような状況となると、達成度を上げる具体的な方法などを検討することは難しいでしょうか。
事務局	健康推進課の森原でございます。ただいまのがん検診の推進という部分で、コロナ禍で受検率が低くなった実態あった。今後は受検率を上げていくために、Web予約の導入や、レポート通知などの郵送で個別に積極的に通知をさせていただいている。 そういった部分は今後も引き続きとはなりますけれど、できるだけ受検率を上げ、早期発見、早期治療に繋げていきたいと考えております。受検率をできるだけ高い数値に持っていけるように今後も引き続き繰り返していきたいと考えております。
横野委員	書いている内容は同じですが、中身は変えているということでもよろしいですかね。わかりました。引き続きよろしくお願ひいたします。
安孫子会長	ありがとうございます。他の委員の皆様いかがでしょうか。
石川委員	健康推進員の石川です。レントゲンを受ける方が少ないことが見られるため、健康推進課から受診勧奨を各家に1枚ずつ配るよう推進員に渡されるなど、そういった対応も健康推進課はしています。
安孫子会長	ありがとうございます。受診率が上がる、その方向について健康推進員さんを中心に活動されていることなども実績として、ようやくこの数値が達成できていることにな

	<p>ります。他の委員はどうでしょうか。</p> <p>次の議題に行ってよろしいですか。では少し目標設定のことや、経年的に見ること、具体的にやっておられることは、経年的に見てそれを補う形で目標が達成するように年々されているのだと思うが、そういったところが説明文だけではわかりかねるところもある。実施した内容についての評価も加えていただけたらと思います。ありがとうございました。</p>
<p>4 議題</p> <p>(2) 第9期彦根市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画骨子案</p>	
安孫子会長	<p>そうしましたら次が議題の2になります。第9期の彦根市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の骨子案についてです。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料説明)</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございました。ただいま事務局から骨子案、いわゆる冊子で8期計画のところをもとにご説明いただきました。ご意見などがある場合には、委員の皆様から頂戴したいと思います。もっとこのようなものを増やした方がいいとか、この内容はどこに反映されるのだろうという意見でもいいのかと思います。</p> <p>前回から比べると各種アンケート結果、骨子案の3番が、8期計画では別冊子になっていたのですか。ボリュームはどのような感じになりますか。</p>
事務局	<p>アンケート結果のみをまとめた冊子も作っております。</p>
安孫子会長	<p>そのアンケートの結果を入れたとしても、今まで作っていたこの8期とそれほどボリュームは変わらないですか。</p>
事務局	<p>計画自体にはアンケート結果を抜粋して、課題のまとめだけは出させていただきます。</p> <p>調査結果報告書は100ページ程度のものになり、そちらを絞って計画に持つてくる形になります。</p>
安孫子会長	<p>では、8期とボリュームは変わらずに、アンケート調査については概要のところを抽出されたものを8期と同じように掲載し、報告書冊子で細かく報告されるということですか。</p>
事務局	<p>はい、そのような形でまとめさせていただきます。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございます。他の委員はどうでしょうか。</p>
田口委員	<p>大津市の計画をもらいました。中身も参考にされてはどうかと思います。一番大きな違いは、最初に市長の挨拶が載っており、彦根市は載っていないことです。前の市長は福祉を大切にしていたと思うのですが、可能であれば、今回は市長の挨拶を入れていただければと思います。</p>
事務局	<p>検討させていただきます。</p>
森副会長	<p>民生児童委員の森と申します。冬に、雪が多くてお年寄りが家から出られない、雪をどけてほしいということが何軒かあった。そういうことへの対応を市の方で検討していただけないか。</p>
事務局	<p>雪に限らず、地震や台風、風水害などの災害全般への対応を、高齢者の安心安全という部分で現計画でも記載をしている。緊急時の対応について記載はしていきます。8期に関しては、雪についての記載は特になかったと思いますが、災害全般に関して</p>

	は、必ず記載をすることになるかと思えます。
安孫子会長	ありがとうございました。他の委員はどうですか。
森副会長	これも活動の一環としまして、年金をもらっておられる高齢者なのですが、足りないからということで生活保護を受けておられて、足りなくなったらうちの家に駆け込んでこられます。生活保護の方へは連絡させていただき、対応をしていただきたいとお願いしたことが何度もあります。お金を借りに来られるということに対してどのように対応したらよいですか。
事務局	社会福祉課ですが、今の話に関しまして後で個別にお話をお伺いします。
森副会長	性同一性障害の方がご近所にいらっしゃるしまして、その方が性転換手術も全てされているのですが、ケアも入っていただいています。障害者福祉と高齢者福祉両方ともケアマネさんがついているのですが、情緒不安定になると鍵が見当たらない状況が絶えず起こる。大概そういうこと起こるのは夜間か土日で、ケアが入っておられない日が多いです。そういう場合、夜と土日のケアさんが対応されない日は、全て民生委員に対応がかってきます。このような場合はどうしたらいいのかをお聞きしたいと思えます。よろしくお願ひします。
事務局	民生委員さんの活動という部分も関わる場合もあるかと思えますが、障害福祉課などの関係している課に一度ご相談いただけるといいと思えます。
森副会長	夜間とか日祭日とかの対応の仕方などをどこでしてもらえるか、どこへ連絡をすればいいかというのもない。
安孫子会長	たくさん問題を抱えていらっしゃる方の対応をされるのにすごく困っておられるという事例を、ご説明されたのだと思う。担当課も多岐にわたっているので、調整をして今困っておられることにこの後対応いただければと思えます。 骨子案については、皆様から大きなご意見はないのでこのまま進めていこうと思えますがよろしいですか。ではそのようにさせていただきたいと思えます。
4 議題 (3) 令和5年度彦根市地域密着型サービス事業候補者の募集について	
安孫子会長	次は次第4、議題の3。令和5年度の彦根市地域密着型サービス事業候補者の募集についてです。事務局から説明をお願いいたします。
事務局	(資料説明)
安孫子会長	はい、ありがとうございました。施設サービスとしては既に休所や人員不足などが改善してきているので、その改善を最優先とするということで、8期計画でも休所解消を優先とするとしていたが、少し解消されつつある。 認知症対応型の通所介護についても、利用状況が少なくなっている原因もあるが、今の既存を必要な人に使っていただくことを優先するため、今回の募集は中止するという説明でした。 委員の皆さんからご意見があれば伺いたいと思えます。寺見委員お願いいたします。
寺見委員	教えていただきたいのですが、認知症対応型の通所介護について、利用が減っている具体的な理由というのはわかっておられるのでしょうか。
安孫子会長	委員の皆さんで実際こうではないかななど思っていることがありましたら、よろしく

	<p>お願いいたします。</p> <p>ケアマネジャーでもありますし、利用者のことから鑑みて、辻委員いいですか。また事務局もお願いいたします。</p>
辻委員	<p>私を知る限り、利用者やその家族が通所系のサービスを希望されるというところから相談が始まります。本来、認知症の方は認知症対応型で利用を進めていくべきところではあるが、利用金額が通常のデイサービスより高い。少しでも認知症対応型以外のデイサービスのご説明もさせていただくと、一般の認知症でも対応できるような状態の方に関しては、経済的な問題もあり、通常の認知症への対応を希望される方が多いという現状があると思います。</p> <p>その辺りは鈴木委員にもお聞きしていただければと思います。</p>
鈴木委員	<p>辻委員が説明されたように金額が高いです。そのため、回数をたくさん使いたいと思われるのであれば、普通の通所介護に変える方が多いということと、重度になってから認知症の対応型デイサービスに行きたいと言われる方が多いのですが、今使っているデイサービスに慣れると移行しづらかったり、認知症が進行していくと途中の移行は受け入れづらく、そのまま移行ができないということもあります。進行を考えると、認知症デイサービスを使っただけの方が進行は遅く、元気に生き生きと生活されている方が多いので、軽度から認知症デイサービスに行かれた方がいいと思う方はかなり多いです。</p> <p>ただ実際、軽度であれば認知症とついでにただでのご家族が認知症のデイサービスを敬遠される方が多いです。</p> <p>また、最初は毎日近く来られる方が多いのですが、重度になってくるとショートステイを使われてきますので、1人当たりの使っている回数が減ります。景気が厳しいので、全国的にも撤退している事業所も多いような状況です。また、参入もなかなかしないことが原因になっていますので、認知症デイサービスというのかなり厳しい。しかし、ケア的には非常に良いので、大事にしていけないといけなサービスです。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございます。利用される側の要因も、提供される側の要因もそれぞれあるということだったと思います。</p>
事務局	<p>事務局の事業者支援係の松田と申します。</p> <p>各委員がおっしゃってくださった通りのことが大半の理由になりますが、昨年度もご説明させていただきましたとおり、令和3年度の国の制度改正におきまして、通常のデイサービスにおいても認知症の一定の資格基礎研修を受けるということが努力義務で始まっております。令和6年度からは努力義務が義務になり、何らかの資格を持たないとデイサービスにおいても職に就けないことや、職員として働けないというような形になるというのが現状でございます。</p> <p>おっしゃってくださったとおり、本来、認知症対応型のデイサービスというのは管理者の方も含め、認知症の知識、経験を持って対応されている。重度化防止や、現状維持が望まれますので適切な対応をしていただけます。しかし、家族の要望や、他のサービスとの兼ね合い、回数があり、軽度の時は通常デイを利用されるということが多くなっております。</p>

	<p>しかし、認知症の方は環境の変化に敏感であるという方もおられますので、デイでのグループができていの中で、家族やケアマネジャーと相談されたうえで動かしづらい環境が生まれてしまっているというのが現状であると思います。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございます。他の委員からありますか。田口委員お願いします。</p>
田口委員	<p>地域密着型介護老人福祉施設を、既存の休所のところを利用して、募集しないということですが、需要と供給の関係で、地域で求めている人が多いけれど、ないということにはならないですか。</p>
事務局	<p>先ほどもご説明をさせていただいたのですが、ここ最近におきまして待機者の方は待機期間が非常に短く、入所できるというお声も聞いている。需要と供給についてはこれまでよりも比較的に入ると認識しております。</p>
安孫子会長	<p>待機の方は重複して申し込まれたりして、連絡したらもう入っておられたということも多く、実人数が随分少ない。表現されている数値より、待機数より少なくなっている現状はあると感じています。</p> <p>他の委員はでしょうか。鈴木委員お願いします。</p>
鈴木委員	<p>今の田口委員の需要と供給のところですが、施設を作るとやはり30年ぐらい残ってくると思います。そうなってきたときに、現状だと待っている方も何人かおられるかと思うので、その人たちが入るには早く作った方がいいということなのですが、30年後果たしてその施設が使われているかと考えたときに、増やす時期は終わったのかと思います。10年ぐらい前は、500人待ちなんて状況だったが、今は申し込みから早いと1週間から2週間で入れる方がいる。そうなったときに施設を使い続けようと思うと、空きが出てくると意味がなくなります。全国的にも特別養護老人ホーム空きが出ていることは問題になっています。逆にサービス付き高齢者住宅がたくさんでき、彦根もだいぶ増えてきていますので、入所系の施設作るのは慎重になった方がいいのではないかと思います。今の休所している施設は再開していただき、それらが稼働すれば受け入れる数になると思います。</p> <p>再開していただくには人材確保が一番大切だということになりますが、新しい施設を作るのは、今後のことを考えると勿体ないと考えています。</p>
安孫子会長	<p>ありがとうございます。他の委員はどうでしょうか。</p> <p>事務局から当面の間そういったことを慎重にしていこうということですので、これで進めさせてもらってよろしいですか。そのようにさせていただきます。</p>
5 その他	
安孫子会長	<p>では、5のその他についてお願いしますが、その他皆さんの方から何かありましたらお聞きしますがどうでしょうか。大丈夫ですか。</p> <p>では、本日の協議は以上となります。事務局にお返しいたします。</p>

事務局	<p>安孫子会長、長時間進行いただきまして誠にありがとうございました。</p> <p>次回ですが、10月を予定していますので、また連絡し、日程の調整をさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>委員の皆様におかれましては、貴重なご意見を頂戴いたしまして誠にありがとうございました。頂戴いたしましたご意見を含めまして、次回以降の協議会の方でも、反映させていけるようまた事務局の方で考えたいと思います。今後ともご理解とご協力の方どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは本日はこれもちまして令和5年度第1回彦根市高齢者保健福祉協議会を終了いたします。どうぞ皆様お気をつけてお帰りください。本日はどうもありがとうございました。</p>
閉会	